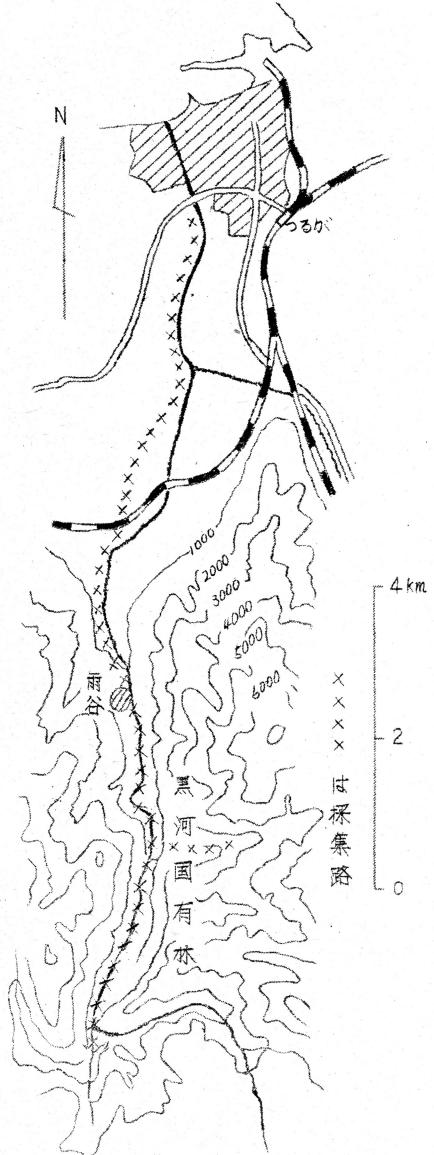


(稿)

ホクリクネコノメソウ, ウワバミソウ, ヒトツバカエ元, コバノガマズミ, ミヤマシキミ, ナガマド, ウラジロノキ, イワナシ, コシアブラ, ウスギヨウラク, 等も出現し, スナは約200mの辺から見られた。

この山の標高は295mであるが、この山頂にはスギの巨木が多く、その他にスナ, ハウチワカエテ, ウスギヨウラク, アクシバ, レンケツツジ, ツクバネウシギ, ホツツジ, ハリギリ, コシアブラ, ナンキンナナカマド, スノキ, ネジキ, ムシカリ, ウスギヨウラク, タテヤマスケ, ウツボクサ, 等がある

(黒蝶一記)



黒河国有林植物採集記

越前と若狭の接する所にある黒河国有林は、暖帶性植物と温帶性植物とが交錯し植物分布上興味があると思われるので、昭和30年7月17日に郷土博物館長畠芳寿氏と共に採集行を試みた。

午前8時56分敦賀駅着と共に徒歩で奥地に向う。敦賀市内に帰化植物イヌムギの見られることは数年前よりわかつていて、市街をはなれた国道の両側がこの雑草で占められていることは、今更ながら帰化植物の進出ぶりの偉大さに驚かれた。

先を急ぐ必要から原野の採集はおいて黒河川に沿って登るあたりから採集にかかった。

このあたりはウラジロカシ, タブノキ, ヤブニッケイ, シロタモ等の常緑広葉樹が優先し、コナラ, アカシテ等がこの間に交り、その下にコブシ, ウツギ, ハゼノキ, ホムノキ, アカメガシワ, エゴノキ, アワスキ, シラキ, ツノハシバミ, ケンボナシ, ヌルテ, リョウブ, ヒメヤシヤスシ, キヌシ, ハネミイスエンジユ, カマズミ, ズミ, アセビ, ツクバネウツギ, ノリウツギ, 等がある。

特にシラキの多いことは注目すべきではなかろうか。下草としてスマトラノオ, ヤマハツカ, アカ

ソ、オトギリソウ、シロヨメナ、ボタンズル、ムカゴイラクサ、カラムシ、テンニンソウ、ニガイチゴが目立ち、サトメシタ、ヒメシタ、イヌワラビ、タケシノブ、イヌカンソク、ヒメワラビ、オオバノイノモトソウ、イヌシタ、イタチシタ、センマイ、カラクサイヌワラビ、ウラジロ、ミツテウラボシ、シシラン等のシダが見られた。若狭の各地に共通していることであるが、ウラジロの多いことは注目すべきものと思う。ミツテウラボシ、シシラン等は比較的稀に見るシダでえがあることも分布面白い。尚ビナンカズラ、イタビカズラ、ティカカズラ、ツルマサキ等のつる植物の繁茂の著しいことも越前の山地では見られないことである。

かくて国有林事務所に到着したのは 11 時頃であるが、こゝで昼食をとる。黒河川沿岸は既て花崗岩より成るので川原の白い砂は実に美しい。

事務所より上流は常緑広葉樹の数も減り、越前の山地でも見られる植物が多い。標集順にあけると次の如くである。

コントイ、ホナガクマヤナギ、コシロネ、ワワミスサクラ、ネムノキ、テロ、ハコヤナギ、タンコウバイ、エゴノキ、コバノトネリコ、ニカキ、ツルウメモドキ、ヤマハゼ、リヨウス、クロモジ、ネジキ、ウラジロガシ、サイコクミツバツツジ、ホツツジ、アセビ、ウリカエテ、クロモジ、ヒサカキ、ネジキ、ナンキンナナカマド、イスシテ、サルナシ、ノヤラン、メタラ、オオツツラフジ、ケンホナシ、トネリコ、カナビキソウ、ハウチワカエテ、ヤマハンノキ、ミズキ、ツリバナ、オオキジノオシタ、オオウラジロノキ、シロモジ、エビガライチゴ、ナナカマド、イソノキ、ハナセキショウ、ツノハシバミ、アクシバ、イカリソウ、ヤブテマリ、ミヤマママコナ、ウスギヨウラク、アカガシ、オオイワカカミ、ミヤマカタバミ、ミズナラ、タマカワホトキギ、ミヤマハハソ、シロタモ、ムラサキマエミ、イフウチワ、キジノオシタ、ヤマソテツ、ホソバトウケシバ、スナ、アオハタ、シラカシ、クヌギ、ヒメヤシヤブシ、カラスザンショウ、木ホノキ、アカシテ、マンサク、ヤマホウシ、イヌカンソク、エゾユズリハ、カンクビソウ、

こゝで注意すべきことはウラジロガシ、シラカシ、アカガシ、シロタモ等の常緑広葉樹とクリカエテ、ハウチワカエテ、ツノハシバミ、ヤマハンノキ、ミズナラ、スナ、クヌギ、アオハタ、ヒメヤシヤブシ、クマシテ、アカシテ、イスシテ、木ホノキ、マンサク、ナナカマド、ウスギヨウラク等の比較的寒い地方の植物が交錯していることである。尚シロモジは越前の石徹白、西谷方面に多く見られるもので美濃近江地方から国境山地を越えて北上したものと思う。

路傍の濕地にはアケボノソウ、ムカゴニンジン、オニスケ、エゾリンドウ、ヒメシタ、マアザミ、スマトラノオ、ナットウダイ、コシロネ、カキラン、オオバギボウシ、ハンショウズル、ムラサキシキブ、ヤブムラサキ、キンコウカ、モウセンゴケ等が見られた。このうちオニスケは他に產地の知られないもので珍しい。

川添の道の植物も一応出盡したようなので 13 号橋の横から谷川にそって登る。こゝで

はウワバミソウ, ミズタビラコ, サワアジサイ, オクモミジハスマ, ヤマタツナミソウ, オオカニコウモリ, キヌシ, スミレサイシン, ヤワラシタ, オオモミジ, ハウチワカエテ, ムシカリ, コハウチワカエテ, コマユミ, エキツバキ, アキギリ, アキチヨウジ, リョウメンシタ, ハクウンボク, キヨタキシタ, ヤワラシタ, サカケイノテ, ジュウモンジシタ, エビネ, チマルメルソウ, ヤマトウバナ,

等が見られた。エキツバキについては南限が越前又は若狭の地にあるだろうとの北村教授の指示によりかねてから注意していたが、ここにもあることを確認した。

(寒蟬義一記)

耳川上流地方植物採集記

若狭の植物分布を調査するたために、堀芳寿先生と共に7月24日耳川上流地方へ採集行を試みたので、その概要を報告する。尚西村校長先生始め弥美小学校の諸先生方が参加され種々の御便宜を計つていただいたことを厚く感謝する。

なるべく上流地方を調査したいという我々の要望により、弥美小学校で手配していただいた小型貨物自動車で、この自動車が行き得るところまで運んでもらう。松屋の上流3Kmの地点で下車し、之より更に能登又谷の上流地方を調査し、県境に近い辺から引返し新庄まで下る。しかしこの頃天候が悪化し、ついに降り出しだが、丁度通りあわせた某建設会社のトラックの好意で、之に便乗させていただき、比較的濡れずに帰ることが出来た。この時ほど人の好意をありがたく思つたことはない。

この調査で一応は新庄から上流地方の分布がわかつたので、採集順によらず下流から上流への分布状況を書く。

